



# 井上クリニック通信

2013 秋号  
VOL.11

今回の第11号井上クリニック通信より、3回続けて認知症についての情報をお届け致します。

## 【認知症〜その1〜】

歳を取れば誰でも忘れっぽくなります。これは脳の自然な老化現象で、多くの場合日常生活に支障はきたしません。しかし認知症になると、物忘れは単なる老化によるものよりはるかに高度となり、物忘れだけでなく注意力、判断力、物事の認識力、日常行為などすべてに機能低下をおこし、日常生活に支障をきたすようになってきます。

### 【認知症の症状 \*中核症状\*】

一番最初に現れる症状は『**近時記憶障害**』と言われるもので、比較的最近の記憶がなくなります。買い物などでつい最近買ったことを忘れて、同じものばかりを買ってくるため冷蔵庫に同じものがたくさんあったりします。また、同じことを何回も繰り返して言ったりします。

次に『**実行機能障害**』計画的に物事を行うことができず、仕事や家事の段取りが悪くなります。



### 『失語』

物や人の名前などが出てきにくくなります。会話の中に「あれ」「それ」などが多くなってきます。また計算も困難になります。例えば買い物の際、釣銭計算などができないためついつい紙幣で支払い、財布の中が小銭でいっぱいになったりします。



### 『失行』

間違った行為をしてしまうことです。例えば夏なのに冬の服を着てみたり、前後反対に着たりすることもあります。また、いつも使っている電化製品の使い方が分からなくなることもあります。

### 『失認』

見たり聞いたり触ったりしたものが何であるかわからなくなることがあります。いつも歩く道が分からなくなり家に帰れなくなったり、布巾と雑巾を間違えたり、食器棚の整理ができなくなったり、形も大きさもバラバラの食器を雑然と並べたり、食器とは違う花瓶や歯ブラシなどを入れたりもします。



このような症状をまとめて認知症の**中核症状**といいます。この中核症状は認知症発生から徐々に進行していきます。現在この中核症状の進行を遅らせる薬が4種類発売されています。

## 【認知症の症状 \*周辺症状\*】

認知症には中核症状に加え周辺症状と言われる症状が出現することがあります。これは介護環境（家族や介護人の対応の仕方）・身体疾患（糖尿病・高血圧・高脂血症など）・生活歴・性格などが複雑に絡み合って出現する症状です。主なものに：

『妄想』誰かに物を盗られたとか隠されたなどということがあります。

『幻覚』無いものが見えたり聞こえたりします。

さらに「攻撃的な言動や態度」「興奮や精神混乱状態」「抑うつ状態」「徘徊行為」など様々な症状があります。これらの症状は対応に大変苦労します。ですからこういった症状が出現しないようにすることが大切です。

次回は、ご家族などに認知症の疑いがある症状が認められた時、まずどこに相談すればよいのか、またどのような検査や治療法があるのか、家族は家庭内でどの様に対応したらよいのかなどについて述べたいと思います。



## いきいき健康教室

次回いきいき健康教室は、平成25年10月12日土曜日午後2時半から主に治療食等を作っておられる株式会社ファンデリーから

管理栄養士の逸見純子氏をお招きして

『減塩食のポイント』～塩分2g以下のお食事ってどんな味？～

をテーマに、講義と減塩食の試食会を開催します。

ご参加いただきました方には食事療法に役立つ粗品をお土産にお持ち帰りいただく予定となっております。

高血圧治療や予防のためにも、奮ってご参加ください。



〒547-0027 大阪市平野区瓜破西2-7-49ニューロータスライ71F  
医療法人井上クリニック TEL:06-6700-8800(代表) FAX:06-6700-8801  
井上クリニック訪問介護ステーション TEL:06-6700-8802

